



早稲田大学時代 角帽をかぶった横光利一



色紙「ささなきの枝うつりゆくところ」横光



色紙「蟻台上に読えて月高し」横光



岡本太郎画・デススケッチ

横光利一帰郷60周年／豊の国宇佐市塾開塾15周年

「横光利一の世界」によせて

ごあいさつ

作家・横光利一が最後に宇佐に帰郷したのは昭和18年11月のことでした。

当時、横光利一は45歳。ヨーロッパ体験をきっかけに昭和12年から書きはじめた長編「旅愁」は7年目に入っていました。帰郷の体験は、のちに「旅愁」の第5編に描かれました。主人公の矢代耕一郎は、自分の幼少期を知っているという村人たちに迎えられ、父祖の墓参をし、ひとり城山にのぼって遠い先祖にも思いをはせます。

今年は、このときの帰郷から60年目にあたります。また、発足から宇佐細見をテーマに横光利一の顕彰活動などを続けてきた地域づくりグループ・豊の国宇佐市塾が、開塾15周年を迎えます。

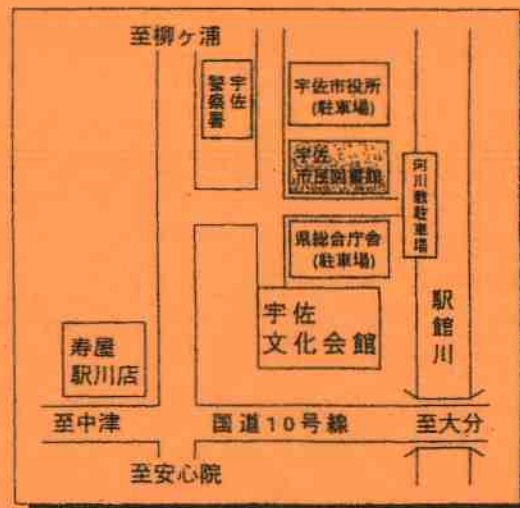
これらを記念して、豊の国宇佐市塾、宇佐市、宇佐市教育委員会の主催により、「横光利一の世界」を開催（3月15日）。今回の文学展は、記念講演や記念出版と連動して開催するものです。

旧横光家資料（現、三和文庫）を中心に、新収蔵資料を加え、これまで当館で開催してきた横光利一展からも一部を紹介しています。

どうぞごゆっくりご鑑賞ください。

平成15（2003）年3月15日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



平成15（2003）年3月15日／発行・宇佐市民図書館
大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679
ホームページ <http://www.usa-public-library.jp/>

豊の国宇佐市塾開塾15周年／横光利一帰郷60周年



「横光利一の世界」

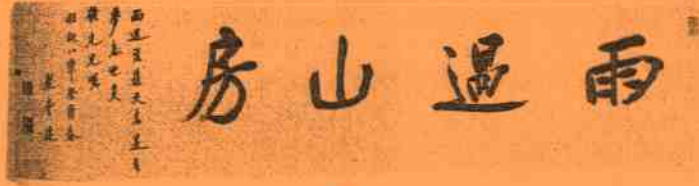
2003. 3. 15 ~ 5. 25

10:00 ~ 18:00（日曜のみ ~ 17:00）
休館日…毎週月曜日・祝祭日・月末木曜日
※ただし、5/6（火）は振替休館日。

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー

横光利一帰郷60周年／豊の国宇佐市塾開塾15周年

「横光利一の世界」によせて

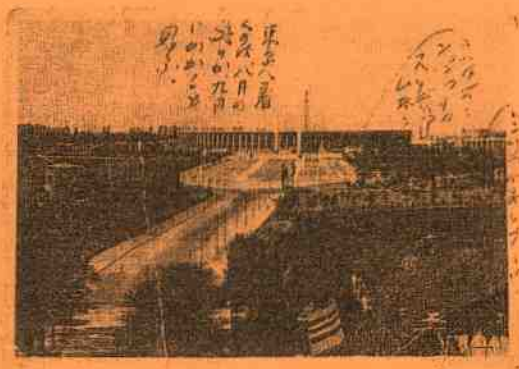


犬養健揮毫「雨過山房」

「雨過山房」は、横光利一の書齋に犬養健がつけた名。



本籍地に宇佐が記入されたパスポート



横光千代子宛 絵葉書 昭和11年 ベルリンより

出展目録

(全68品)

【原稿類】

- 1 「覚書」(随筆) 四百字詰5枚完 【三和文庫】
- 2 「鉄棒」(小説草稿) 四百字詰20枚完 【三和文庫】
- 3 「メカニズムと形式」(評論) 四百字詰4枚完 【三和文庫】
- 4 「洋燈」(小説・絶筆) 四百字詰11枚完 【三和文庫】

【色紙他】

- 5 横手初めてぞ心静まれば鮎有りと云ふ／横光利一
- 6 松の芽の伸び美しき雲の峰／横光
- 7 「道元訓／菜あり米ありと申すべからず／菜生します米生しますと申すべし／横光」
- 8 色紙「カムランの島浅黄なる衣更／横光利一」
- 9 河の石青みどろ濃く雷来る／横光 【三和文庫】
- 10 団扇書「衣更へはるかに椰子の傾ける利一」1枚 【三和文庫】

【書簡類・妻への手紙】

- 11 横光千代宛 団扇葉書 嵐山にて 【三和文庫】
- 12 横光千代子宛 便箋2枚 昭和11年 ロンドンより 【三和文庫】
- 13 横光千代子宛 絵葉書 昭和11年 ベルリンより 【三和文庫】

【書簡類・横光利一宛ほか】 【※すべて三和文庫】

- 14 井伏鱒二書簡※ ペン書き 四百字詰原稿用紙1枚 封筒付 昭和10
- 15 井伏鱒二書簡※ ペン書き 四百字詰原稿用紙1枚 封筒付 昭和10
- 16 川端康成書簡※ ペン書き 原稿用紙2枚 封筒付 昭和10
- 17 川端康成書簡※ 毛筆巻紙13行 封筒付 昭和9年10月?14日

【その他の関係資料】

- 18 川端康成名刺(横光利一宛紹介状書き入れ) 【三和文庫】
- 19 海軍報道班員身分証明書(写真入り) 【三和文庫】
- 20 文芸家協会会員之証 【三和文庫】
- 21 横光利一のパスポート(本籍地・宇佐が記入されている) 【三和文庫】
- 22 岡本太郎画・デススケッチ 【三和文庫】
- 23 佐野繁次郎画・デススケッチ 【三和文庫】
- 24 芥川賞・直木賞百回記念金時計 ケース付 【三和文庫】
- 25 犬養健揮毫「雨過山房」 【三和文庫】

「雨過山房」は、横光利一の書齋に犬養健がつけた名。

犬養健は新感覚派のメンバーのひとりで、首相になった政治家・犬養毅の息子。

- 26 組紐「古里を遠ざかりたる水かな／横光」

この俳句は、宇佐への帰郷の帰り道につくられたといわれている。横光利一の色紙をもとに、増井組紐工房(三重県上野市)の増井萌氏が編んだ作品で、井上謙氏より宇佐市に寄贈された。

- 27 木曜社・横光利一の二、三周忌の出欠返信はがきから

(石川桂郎、上林暁、清水基吉、寺崎浩、永井龍男、中河与一、中里恒子、中山義秀、橋本英吉)

木曜社は、横光利一没後、旧知門人により、墓碑建設などを予定事業として設立された。社長は川端康成。

出展目録

【写真】

- 28 自宅にて(昭和12年)
- 29 バリにて(昭和11年)
- 30 自宅前にて千代、象三と(昭和5年)
- 31 自宅書齋にて(年月不明)
- 32 早稲田大学高等予科英文科時代の記念写真(大正9年前後)
富永美津子氏提供
- 33 辛島栄成氏の結婚式でスピーチする横光利一(昭和14~15年)
林薫子氏提供
- 34 東京世田谷区の自宅居間にて
- 35 子どもたちと散歩
- 36 洋画家の佐野繁次郎と(昭和10年)
- 37 森敦と(昭和8年)
- 38 横光利一、三周忌記念写真
昭和25年11月30日、多磨墓地の横光利一墓前にて。
- 39 三重県上野市「横光利一青春碑」
- 40 三重県伊賀町柘植「蟻台上に銀えて月高し」の碑
- 41 山形県鶴岡市「夜の靴」文学碑
- 42 宇佐市光岡城跡に建つ横光利一「旅愁」文学碑

【紹介文・】「横光利一と、その周辺の作家たち」より

- 43 菊池 寛(1888~1948) 「横光君について」より
- 44 川端康成(1899~1972) 「横光利一弔辞」より
- 45 小林秀雄(1902~1983) 「横光利一」より
- 46 八木義徳(1911~1999) 「幾つかの寸言」より
- 47 吉田健一(1912~1977) 「先駆者横光利一」より
- 48 森 敦(1912~1989) 「鰻のハシゴ」より
- 49 中村真一郎(1918~1997) 「最初の前衛作家」より
- 50 清水基吉(1918~) 「横光利一の俳句」より
- 51 吉本隆明(1924~) 「わたしの横光利一体験」より
- 52 辻邦生(1925~1999) 「横光利一からの光」より

【書籍・雑誌】

- 53 『旅愁』各種(戦前版・戦後版・文庫など)8セット計18冊
- 54 『宿命』(句集)清水基吉著(俳句研究社)1966年2月10日発行
- 55 『雁立(かりたち)』清水基吉著(鎌倉文庫)1946年9月10日発行
- 56 『文藝春秋』昭和20年3月号(清水基吉作「雁立」芥川賞発表号)

【パネル】

- 57 朝倉摂さんの挿絵で読む「30ページの『旅愁』」(旺文社文庫より)
- 58 朝倉摂氏略歴と近影／59 「旅愁」梗概／60 横光利一年譜／61 全国横光利一文学碑一覧

【新聞記事】

- 62~64 「大分合同新聞」1998. 9/27, 2003. 3/13, 14/
- 65 「毎日新聞」1999年8/19
- 66~67 「読売新聞」2003. 3/11, 13

【書】

- 68 書「旅愁」より(平展齋) ※常設展示